

平成二十一年度 高校読書感想文コンクール実施要領

◇応募要領

- 一、高校男女全学年とも全員参加とする。
- 二、各クラスに「読書感想文コンクール・クラス委員会」を設置する。その構成は、クラス担任・図書委員のほか、担任の推薦または互選によって任命された三名を加え、計五名とする。
- 三、課題図書は全学年共通で、計十冊を選定した。感想文はそのうち一冊を選んで書くこと。
なお、課題図書は各自で購入するか、学校の図書館や地域の図書館など各自で活用されたい。
- 四、提出期日は九月一日。感想文を担任に提出する。
また、枚数は四百字詰め原稿用紙（できるだけB4版で作成）三〜五枚（一二〇〇字〜二〇〇〇字）程度とする。
（必ずB4袋と同じ、ホチキス止め。クラス、番号、氏名を明記すること。）

◇審査選考方法

- 一、読書感想文コンクール・クラス委員は選考（クラス予選）を行い、二編のクラス代表作品を決定する。
- 二、クラス予選通過作品は、教員による読書感想文コンクール委員会で最終審査を行い、優秀作一〜二編、及び佳作数編とを決定する。
- 三、優秀作・佳作には賞状および、副賞として図書券を贈りこれを表彰する。

◇入選発表

入選作品は二学期終了日に発表し、そのうち数編を校報に掲載する。

◇課題図書

随想・評論的作品	文芸的作品	
『戦争の日本近現代史』 加藤陽子 講談社現代新書	『その名にちなんで』 J・ラヒリ 新潮文庫	『罪と罰』 ドストエフスキー 光文社文庫版 全3冊 新潮文庫版 上下2冊
¥798	¥740	¥2620
『あらためて教養とは』 村上陽一郎 新潮文庫	『母』 三浦綾子 角川文庫	『春の戴冠 全4巻』 辻邦生 中公文庫
¥540	¥483	¥4100
『三酔人経綸問答』 中江兆民 岩波文庫	『しのびよる破局』 辺見庸 大月書店	『右大臣実朝』（『惜別』所収） 太宰治 新潮文庫
¥693	¥1365	¥540
『1984』 G・Orwell Longman penguin Readers		
¥809		

◆ 課題図書案内

「右大臣実朝」(『惜別』所収) 太宰治 新潮文庫

・アカルサハ、ホロビノ姿、アロウカ。人モ家モ、暗イウチハマダ滅亡セヌ。 敗戦へとひた走る時代風潮に対する芸術家としての自己の魂を、若き頃からの理想像、源実朝に託して謳う『右大臣実朝』。太宰文学の中期を代表する作品である。

『春の戴冠』 辻邦生 中公文庫

古典学者の「私」が語り出す幼なじみサンドロ(ボツテイチェルリ)の生涯とフィレンツェの華やかなりし日々。巨匠の幻の傑作! メデイチ家の恩顧のもと、祭りに賑い、楽しげなはずむような気分覆われた花の盛りのフィオレンツァ。「私」と幼なじみのサンドロは、この日々が過ぎゆく人生の春であることに、まだ気が付いていなかった。壮大にして流麗な歴史絵巻。

『母』 三浦綾子 角川文庫

明治初め、東北の寒村に生まれた小林多喜二の母セキ。大らかな心で多喜二の「理想」を見守り、人を信じ、愛し、懸命に生き抜いたセキの、波乱に富んだ一生を描く。明治初頭、十七歳で結婚。病弱の夫を支え、六人の子を育てた母セキ。貧しくとも明るかった小林家に暗い影がさしたのは、次男多喜二の反戦小説『蟹工船』が大きな評判になってから。大らかな心で、多喜二の「理想」を見守り、人を信じ、愛し、懸命に生き抜いたセキの、波乱に富んだ一生を描き切った、感動の長編小説。三浦文学の集大成。

『罪と罰』 ドストエフスキー 光文社文庫(新訳)／新潮文庫

その年、ペテルブルグの夏は長く暑かった。大学をやめ、ぎりぎりの貧乏暮らしの青年に郷里の家族の期待と犠牲が重くのしかかる。この悲惨な境遇から脱出しようと、彼はある「計画」を決行するが……。なぜ人を殺してはいけないのか? 果たしてこの問いに答えはあるのだろうか? 答えがあったとして、それは正解なのだろうか? ドストエフスキーはこの問いに答えを出さない。代わりに、殺人を犯した人間の苦悩、葛藤、憔悴といった心理状態を執拗なまでに描写してみせる。罪とは何か? 世界文学に新しいページを開いた傑作。

『その名にちなんで』 J・ラヒリ 新潮文庫

ゴーゴリ。列車事故から奇跡的に父の命を救った本の著者にちなみ、彼はこう名付けられた。しかし、成長するに従って大きくなる自分の名前への違和感、両親の故郷インドとその文化に対する葛藤、愛しながらも広がってゆく家族との距離。『停電の夜に』でピューリッツァー賞などの文学賞を総なめにした気鋭のインド系米人作家が、自らの居場所を模索する若者の姿を描いた待望の初長編。

『戦争の日本近現代史』 加藤陽子 講談社現代新書

日本はなぜ太平洋戦争に突入したのか? 明治維新以降の「戦争の論理」を解明した画期的近代日本論。戦争を受けとめる論理について洞察した、日本史を知る上で必読の書!

『あらためて教養とは』 村上陽一郎 新潮文庫

教養の原点。それは、モラルにあり。いかに幅広い知識や経験を身につけていても、人間としての「慎み」が欠けていては、真の意味での教養人ではない。ヨーロッパで生まれた教養教育がやがて日本に伝わり、大正教養主義や戦後民主主義教育によって移り変わってゆく過程をたどりながら、失われた「教養」の本質を再確認させてくれる、村上陽一郎氏による日本人必読の書。

『三酔人経綸問答』 中江兆民 岩波文庫

一度酔えば、即ち政治を論じ哲学を論じて止まるところを知らぬ南海先生のもとに、ある日洋学紳士、豪傑君という二人の客が訪れた。次第に酔を発した三人は、談論風発、大いに天下の趨勢を論じる。日本における民主主義の可能性を追求した本書は、民権運動の現実を鍛え抜かれた強靱な思想の所産であり、兆民第一の傑作である。現代語訳と詳細な注を付す。

『しのびよる破局』 辺見庸 大月書店

大反響のNHK・ETV特集を再構成、大幅補充。金融恐慌、地球温暖化、新型インフルエンザ、そして人間の内面崩壊。異質の破局が同時進行するいまだかつてない時代に、私たちはどう生きるべきか。「予兆」としての秋葉原事件から思索をはじめ。

『1984』 G・Orwell Longman penguin Readers

Winston Smith lives in a society where the government controls people's lives every second of the day. Alone in his small, one-room apartment, Winston dreams of a better life. Is freedom from this life of suffering possible? There must be something that the Party cannot control something like love, perhaps?